

北海道医歌人会詠草



祝北大医学部九十年史完成

札幌 山口 康徳

一九二一医学部開設九十年先輩苦しみ拓きたる苦斗の歴史を見るを悦ぶ
連日の如く展開る国会はかつて見られし灰皿もかくやと
未曾有なる震災早く収めむと国民団結しいまや蹶起す
ひそやかに忍び寄れるや春気配倦みたる冬をなぐさむ如く
突如としこを先途と狂ひたる震災起り悶す一年

談志のがん死

札幌 古屋 統

「芝浜」で禁酒の亭主演じたる談志のがん死禁煙なくして
日に十本喫えば妻帯成らざりし戦後の給料知るや少なき
ハイライト以後に煙草の味覚え値上げ辛しと言う愚かさよ
愛煙を誇示して無知を嗤われし厚生大臣を生みし日本は
選挙区に葭農家を持つ議員愛煙言わねば票が逃げ去る

親鸞大遠忌法要

美唄 吉村 誠治

親鸞の遠忌法要に詣でたり念仏唱ふる日は門信徒
金色に改修されし御影堂底冷ゆるなか座したり我は
義弟の大谷廟への納骨をことなく終へて妻と安らふ
幾度か詣り来りし大仏殿残るひとつの願ひ深まる（東大寺）
三百余段杖を突き突き登り来て観音菩薩の慈悲に額づく（長谷寺）

エゾイタドリ

札幌 浜島 泉

雪山に埋もれず頭もたげをりエゾイタドリの枯れ棒杭が
丘に建つ箱型の家煙突に白き燻りの初霜の朝
親と子と分かたぬ雀囀りて小春の叢に草の穂啄く
お迎へを疾くにと願ふ病人の窓にトンボの飛ぶ昼下がり
寛解に我が誤診かと訝るも時経病魔の到り迫りて

ついのすみか

釧路 児玉 昌彦

「数年を経ず帰らむ」を口癖に根はしつかりと北の大地に
生涯を仮屋住まいと定めたるその果てに得むついのすみかは
引越しの荷物の整理遅々として棄てられぬものそのままそっと
表札もカーテンもつかぬ新しき住まいで始まる試行生活
月の光・星のあかりのさす寢室は梢模様様の朝で明ける

コタ キナバル

旭川 稲積 文子

白砂の穴より飛び出して逃げて行く蟹に悪戯せしは吾が夫とは
用意せし水着には触れずマヌカン島の潮風を避けて頬をいたわる
転びたる頬の打撲をかくさんと夜になりてもサングラスを外せず
首狩りの子孫が受け継ぐマリーマリー村自然に生きる巧みな手作業
首狩りは廃止されしが舞踊ショーの舞台には頭蓋骨が一例に並ぶ

光

江別 三宅 浩次

暗黒の雲垂れこめる隙間より光を受けて患庭岳見ゆ
神様が降りて来たのと子供いふ雲の切れ目の一筋の光
冷たくも目を細める眩しさに雪遊びする子らのはしやく声
希望といふ言葉に続く光あり冬に続くは春といふ言葉
ストレスに戸惑わされてネオン灯の街彷徨す無意味なれども